

令和4年11月7日

【富山県美術館】TAD アート・レクチャーの開催

富山県美術館では、アーティストや研究者など、さまざまな角度で作品の魅力に迫る機会として、「TAD アート・レクチャー」を開催しています。

今回は、美術史家、日本大学芸術学部教授の大熊敏之（おおくま としゆき）氏を講師に、「ゆれうごく具象と抽象—吉岡堅二《水禽屏風（すいきんびょうぶ）》をめぐって」をテーマとしてレクチャーを行います。

概要

講演会

「ゆれうごく具象と抽象—吉岡堅二《水禽屏風》をめぐって」

日時

令和4年12月3日（土曜日）午後2時～（約90分）（※）開場：午後1時30分

講師

大熊敏之氏（美術史家・日本大学芸術学部教授）

会場

富山県美術館・3階ホール

定員

50名程度／聴講無料、事前申込不要、先着順

（※）ヒアリングループシステムをご利用いただけます。

内容

《水禽屏風》は、日本画家・吉岡堅二の代表作であり、1952年のヴェネチア・ビエンナーレに出品された、戦後の日本画の動向を示す優作です。

この度、本作が富山県美術館へ寄贈され、現在開催中のコレクション展3期にて初公開されました。寄贈・初公開を記念し開催する本講演では、戦後の日本画について、世界、そして日本の視点からお話しいたします。

コレクション展3期

期間：10月27日（木曜日）～1月31日（火曜日）

場所：2階展示室1

観覧料：300円

(※) 詳細は当館WEBサイト（外部サイトへリンク）（別ウィンドウで開きます）をご覧ください。

講師略歴

大熊 敏之（美術史家、日本大学芸術学部教授）

1959年生まれ。北海道立近代美術館、宮内庁三の丸尚蔵館で学芸員として勤務。1997年から約1年、アメリカ・スミソニアン研究機構の非常勤日本近代美術スーパーバイザーを務めた。富山大学大学院芸術文化学科教授を経て、現在、日本大学芸術学部教授。国内外の近現代美術、工芸・デザインに精通した研究を続ける。テレビ番組「開運！なんでも鑑定団」の鑑定士としても広く知られる。



コロナウイルス感染拡大防止に関するお願い事項

1. 館内では、マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いいたします。
2. ホール入室の際に非接触型体温計での体温測定にご協力ください。（体調不良の方はご遠慮ください。）
3. 密集を避けるため、会場のホールでは前後両隣の間隔をあけて席を設けます。
4. ホール内では会話を極力ご遠慮ください。（ホールでの飲食はお断りしております。）

(※) 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、日時等変更する場合がありますので予めご了承ください。

**MAKE
TOYAMA
STYLE**
BEYOND CORONA, WITH US

